来る福祉元年

わたしたちのすべきことはなに

障害者自立支援法　成立したけれど

厚生労働省から出てくる、法案を読み込み、理解することに、四苦八苦し、読めば読むほど、**なーんだ、まだ具体的なことは決まってないんだ！**

とびっくりしてしまいます。例えば、仲間達の障害の程度を区分する、認定の内容。

新しい体制になった場合の、小規模の扱い等。きめ細かく決まっていることは、自己負担の仕組み。

これは、細かすぎて複雑。なんとも皮肉なことです。

これらがはっきりするのは、十八年、一月～三月だということなので、施設側は怒涛のような新年を迎えることになります。

先日の臨時総会で、自己負担の仕組みを聞きましたが、アンケートの結果、ほとんどの方が、「よくわからなかった」との返答でした。法案の骨子についてのお話だったので、具体的なことが見えてこなかったためと思われます。ですが、すぐに各家庭で所得区分認定をしなければなりません。

十二月末に自宅に市から申請書の書類が届きます。わからない方は支援センターで相談を受けますので、申し出ください。

十二日の川崎市健康福祉委員会で、利用者負担の軽減を行うことが、採択されました。まだこれからの運動で、変わることもあります。署名活動よろしく！

赤い屋根の通信の中に響く一文がありましたので紹介します。

この法案が可決されたとき、ニッポンは

世界でひとつだけの国　なりました。

なぜならば、障害のある人たちに応益負担を課す国は、どこにもないからです。逆の意味で

世界でひとつだけの国　にするために、くじけてなんかいられない。

NO、17
2005年 12月16日

社会福祉法人
はぐるまの会
広報委員会
後援会
川崎市多摩区菅馬場
1-18-17
TEL　044-946-1308

平成九年に、はぐるまだけのマラソン大会から、「自分たちのつけてきた力を、外に向かってアッピールしよう」「地域のランナーと一緒に走ろう」という目標で地域にでていく、マラソン大会を計画した時期があります。その年は、大雪でせっかくの計画が流れてしまいましたが、あれから八年、今、地域に出て行くことはなんら特別なことではなくなりました。

新春マラソンは、最高八十歳の方も、ランナーとして参加していることや、はぐるまの保護者のエントリーもあったり、幅広い方が参加できる大会です。何千人もの人の中で走る緊張感や、爽快感を満喫して、新春の多摩川を走りましょう。

とはいえ、十キロを走るのですから、今からしっかり準備をしています。また、冬期休暇中の練習も組みました。年末年始は一年で一番体調管理が難しい時期でもありますす。健康には十分注意し、本番に臨んでください。

れんらく板

多くの署名を！目標200枚

障害者自立支援法の学習会が、多くの所で開催されています。将来の明るい展望が見出せない、と悲観ばかり・・では だめですね。今後は市の役割が非常に重くなり、福祉施策には注目していかなくてはなりません。

私たちの願いを、常に発信していきましょう。 **署名は二枚切り離さず提出してください。**

協力をお願いします

物品の協力ありがとうございます。

なかまの歌カレンダーが 30部ほど売れ残ってしまいました。

きょうされん作製のもので、はぐるま買取が80本です。利益率は高く、1本につき596円の利益があります。

仲間のボーナス獲得・仲間の家貯金のため、買取の協力をお願いします。

各作業所まで連絡をください。

花ハウス情報

「よみうりランド光と愛の事業団」と数回話し合いを持っています。

試飲会で施設の職員さんや、利用者さんにコーヒーや紅茶を試していただき、よい評価をもらいました。

仲間会も見学をし、広さと、完備のよさにびっくりする人

夢を持った人、等さまざまな感想をもったようです。

今後の展開ですが、運営資金がどれだけかかるのか、利益がどの位あがるのか。どのような活動を展開すればよいかを、1月から3月まで週2日営業し試行する期間を設けます。経過は次号で報告します。

こんなエピソードがあったのです。

《石拾い》「焼き芋」と聞いた時、石焼き芋が思い浮かびました。そこで、石を集めに多摩川の河原へと石を拾いに行く事から始めました。寒空の下、第一作業所の仲間を引き連れ、手頃な石（1㎝ぐらいで、角のない丸い石）を集める訳ですが、これがなかなか曲者で、河原には手頃な石がなかなかなく、一時間近い時間をかけても必要量の半分ぐらいしか集まりませんでした。結局、その後も石拾いに行き、風が吹く寒い中、第一作業所の仲間は黙々と石拾いをしてくれました。

《試作》石を拾い鍋に入れたら、実際に焼き芋を作って見ることにしました。当初は、蒸してから焼く事を考えていましたが、折角なので、レンジで調理してから焼くのと、調理せず直接焼くなど、いろいろと試してみました。その結果、冷めても美味しく短い時間で焼ける直接焼く方法が良く、当日は直接焼く事に決めました。あとは難点の、焼き上がり時に芋の切り口が白くなってしまい、見た目が良くない事をどうするか工夫するのですが、これという対策が見つからず、前日になってしまいました。そんな時でした、前日準備で調理にきていた保護者の方から「アクをぬけば良い」と言われ、試しに水に芋を漬けておき焼いてみると、焼き上がりの見た目がとても良くなり、この出来なら当日安心して販売できると手応えを感じ問題は解決しました。

石拾いから始まり、様々な試行錯誤の末、バザー当日をむかえました。

しかし、当日は焼き上がりに時間がかかったり、良く焼けていなかったり、中が黒かった芋もあったりとして、なかなか思うようには焼けません。そんな中、「こうした方が良い」「こっちでも、焼こうか？」など助言して下さったり、手伝って下さったりと、皆さんに助けられながら、なんとか焼き芋を出品させることができました。

気がつけば「焼き芋」は完売という結果になりました。これもみな、お手伝いをしていただいた皆さんのおかげです。「ありがとうございました。」

次もがんばるぞー

はぐるま マラソン大会のお知らせ

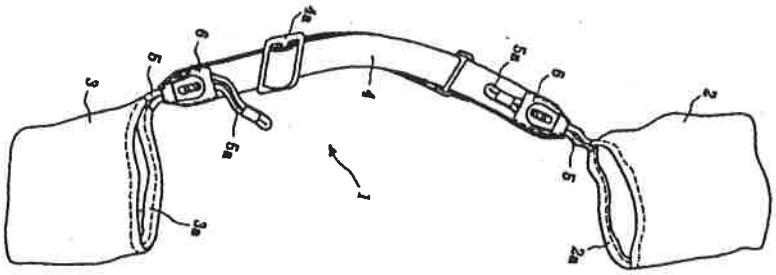
毎年仲間のやる気の姿が見られます、マラソン大会ですが今年度は、一月八日に行われる「新春マラソン」に参加することで変えさせていただきます。

考案者

中倉　太郎さん

モデル　渡辺　文恵さん

できあがりをしょってもらいました



野外撮影のときに欠かせない三脚。愛好家の方は三脚を何台か持っています。
多様な三脚と雲台(取り付け部分)の組み合わせに利用可能。軽くていらないときの収納にも便利です。

ちょっといいはなし パートZ

十二月四日に
金田家に待望の女の赤ちゃん誕生
お名前は《璃子》(りこ) ちゃんです。
母子ともに健康。
後日父親談など聞かせていただきましょう。
とにもかくにも
おめでとうございます

はぐるまバザーにぎやかに

十二月三日　保護者会・仲間会合同の、バザーを中野島公園で行いました。心配された天気もどうにか持ちこたえ、前回よりも地域の方の参加も多く、いつもは静かな公園が、中野島銀座になったよう。はぐるまの「ふきん」をわざわざ買いに来てくれた人などいて、地域の名物になればいいなあと思いました。エイサーの「舞弦鼓」のみなさん、場を盛り上げてくださってありがとうございました。またよろしく。

仲間バザー実行委員長　佐藤　卓

昨年は、五月こどもの日で、雨で中止になって、ふつうの日になっちゃったので、人が少なかった。子どもも少なかった。今年は、土よう日だったから人が多かった。よその人がたくさん来てくれた。第二作業所がバザーの担当だったので、仲間の日程表や、チラシくばりを決めた。去年のを見てやったから、そんなにむずかしくなかった。エイサーの人たちが来てくれておもしろかった。

またはぐるまバザーをやりたい。

親の会実行委員長　飯嶋　正子

今回で三回目のバザーに打ち込んで、年を取る暇もなかった私たちです。これはひとえに委員をやったおかげです。皆様も一度バザー委員長、並びに委員を経験してくださると、若返るかもしれません。バザー会場が公園の広場なので、途中雨になったらどうしよう（本当に途中霙にあってしまいました）お客さんが来なかったらどうしよう。出展してくださった方の品物が売れるとよいが・・・なんて考えると眠れない日もありました。値付けのときなど、「これいい品売れるわよ、いくらにする」「これだめね、あれ，こんな物まで・・・」などとお母さんの声が聞こえます。値付けは大変ですが、「こんなに安く？」「こんなに高く？」などと笑いもあり、楽しい時間でした。おでんの仕込みや売り場に立ってくださった皆さん、本当にありがとうございました。いざ終わってみると、いろんな方から「お疲れ様、ご苦労様、ありがとう、頑張ったね」と声をかけられて実行委員の丸山さん、山岸さんと一緒に「あー終わったね」と。今までの疲れがうそのようでした仲間たち、職員、保護者の皆さんの協力があればこそ、バザー委員だけではできません。来年のバザー委員になられた方、楽しんで受けてください。よろしくお願いします。

焼き芋奮闘記

職員会　第一作業所　小関

はぐるまバザーにて「焼き芋」を販売しました。実は、焼き芋を出品するにあたり、

こんなご時世ではありますが

ちょっといいはなし（パート1）

十月の暖かいある日、中野島に住む中倉太郎さん(九十歳)が、ひょっこり第一作業所に来てくださいました。話の要件は「わたし(中倉さん)が考案した、**三脚収納袋**が特許を取りました。その権利をはぐるまさんに譲りたい。製品化してもらえないか」ということでした。

中倉さんが、はぐるまのような施設に譲りたいと、知人に相談し、その方に紹介されたとのことで、来ていただきました。

突然のお話だったので、決めかねていたのですが、中倉さんの熱意と、気持ちが伝わり、図面どおりの製品を作ってみることにしました。

取材に行きお話を聞いてきました。

九十歳にして（何かしなければ）

重い写真機専用ザックを背負いながら山登りをする中倉さんは、九十歳を迎える。70歳代まで各地を廻りながら、ご自身のたどってきた人生を振り返り尾根道歩く。四季折々の自然の変化を感じながらも、なおカメラの三脚収納袋の不便さという現実に知恵を巡らし、シャッターチャンスには即座に三脚を取り出し、ケースは風に飛ばされないよう体に縛り、納めておきたい景色を残す。その姿と感情は今も健在。

訥々と話されるその姿に福祉の原点を感じさせられた。

考案した三脚収納ケース（仮称NKポケット）は特許を取得し、その軽さ、使いやすさは従来のものと比べてはるかに優れている。

単純なデザインの中に江戸期を彷彿させる雰囲気を持ち、持つ人の体との一体感を醸し出す。

大手企業へ持ち込めば何らかの利益につながるであろう特許権を「生涯何か社会に役に立つことをしなければ」という思いからまったく知らない「はぐるま」に持ち込んでくださった。

製品自体の市場性云々以前に、九十歳に到達する人としてのもの作りの考え方に感銘を受ける。大衆性を持ち、より買いやすい値段と高機能性を持ち合わせた製品として作製していただきたいと条件をつけられた。

勿論ご本人の一番の願いは「私の特許権がはぐるまという福祉の道で財政的に苦労されている皆様に少しでも役立っていただければこの上ない幸せです。」と、御礼の言葉を失うほどの重みのある言葉を伝えてくださった。

この思いは何とか現実のものとして遂行していくことが成果につながる一例になるのではないでしょうか。

中山記

※尚、中倉さんの家系は鉄道会社を設立されたり、機械メーカーを創業されたりしていらした事業家でした。

※特許の権利をいただくために、いくつか手続きが必要です。それについては、司法書士の玉村さん(はぐるまの評議委員でもあります)に相談して進めます。

今後仲間の授産に反映できるよう、様々な売り込み、販売方法を考えていきたいと思います。